

侵襲性細菌感染症に罹患した患者様の情報に関する研究利用についてのお知らせ

この度、東京医科大学微生物学分野研究室において、「臨床検体から分離された侵襲性感染症原因菌の分子疫学解析と薬剤耐性化の経年的推移」を実施することになりました。

1. 研究責任者:中村 茂樹, 実務責任者:大楠 清文, 宮崎 治子, 生方 公子

2. 研究期間: 研究承認日 ~ 2026 年 3 月 31 日

3. 研究目的:

この研究は、全国の医療機関からその精査の依頼を受ける「小児と成人における侵襲性細菌感染症由来の細菌」について、得られた解析結果をまとめ国内のみならず世界へ発信することを目的としています。

4. 研究方法

依頼を希望する不特定医療機関

- ① 各医療機関に入院となった侵襲性感染症の患者様から採取された平素無菌的な検査材料(通常無菌的な血液、髄液、胸水、関節液、組織など)から分離された特定細菌について、各医療機関に所属する医師から当研究室へ精査依頼があった場合に限定しています。
- ② 特定細菌とは、1)肺炎球菌、ii)A 群、B 群、C 群、G 群溶血性レンサ球菌です。
- ③ 各医療機関においては、先ず患者様あるいはご家族様に対し、①起炎菌を外部医療機関である「東京医科大学微生物学分野・研究室」へ送付し、詳細な解析を依頼すること、②菌株送付と同時に、匿名化された基本的な患者様情報(年齢、性別、推定疾患名、推定菌種、血液検査値等)を提供する旨のインフォームド・コンセント(IC)を実施していただきます。
- ④ IC された菌株のみ解析対象となります。

解析依頼を受けた当研究室

- ① 菌株到着後、i)菌種の精査、ii)莢膜型および *emm* 型等の病原因子の解析、ii)薬剤耐性遺伝子解析を速やかに実施し、結果は依頼元医療機関の担当医師へ報告いたします。
- ② 菌株が集積された後に multilocus sequence typing(MLST)解析を行います。

5. 研究成果

基礎研究で得られた結果は、わが国における「分子疫学情報」として専門学会や専門医学雑誌等に公表されることがあります。

この研究の計画や研究の方法について詳しくお知りになりたい場合や、この研究に検体やカルテ情報を利用することを了解いただけない場合などは、下記の「問い合わせ先」へご連絡ください。ご連絡がない場合には、ご同意をいただいたものとして研究を実施させていただきます。

【問い合わせ先】

東京医科大学微生物学分野

研究責任者 中村 茂樹

連絡先 03-3351-6141 (内 240)